

和歌山県名匠

新田隆造(新田和夫)

職歴

昭和2年おじの岩下春吉氏に師事し、大阪唐木指物師の道にはいり昭和13年独立、昭和30年から現在地で製作している。

業績の概要

大阪唐木指物は、約300年におよぶ伝統技法をもち、中国広東地方から伝わったとされている。

唐木指物は、紫壇、黒壇、花梨、タガヤマン鉄刀木などを材料に釘類を使わず各種の組み継ぎ手と膠で組みたてられ美術的に価値の高い調度品であるが新田氏は主に紫壇を材料とした花台を子供4人と協力して製作している。

出荷先きは、大阪、北陸方面で、氏の作品は、伝統をまもりながら日本的な創作を加え優雅さと気品が高いので評判が良い。

昭和52年には伝統工芸品として通産大臣の指定をうけ昭和53年度伝統工芸士の認定をうけられている。

昭和53年第1回大阪唐木指物展に出品し、優秀賞を受賞された。

また、後継者として息子4人を指導され、数少ないこの伝統工芸の伝承に力強い希望となっている。



唐木指物師